

宮崎まちづくり活動団体情報

Vol. 14



宮崎学区の竹林をきれいにしましょう

【オクオカ竹資源活用協議会】

荒廃竹林の解消に向けた活動始まる

○オクオカ竹資源活用協議会が発足しました

令和4年6月14日、岡崎市の東部地域を新たに「オクオカ」と称する中で、特に額田地域を中心とし、竹資源を活用して地域活性化を図る協議会が発足しました。協議会の目的は、所得・雇用の増加や定住促進に向け、竹資源の潜在的な力を活用するための体制の構築、商品開発及び販売促進等に関する事業を行うことを目的としています。運営委員会は、岡崎市森林組合・あいち三河農業協同組合・岡崎市ぬかた商工会・岡崎市ぬかたブランド協議会の委員をもって構成されます。また事業を円滑に進めるために、作業部会を設置して専門分野の課題を研究していきます。当日は設立総会と位置づけ、役員が選任されました。協議会長は、森林組合の荻野昌彦専務、副会長を額田ブランド協議会の深瀬政幸さんとぬかた商工会の梅村順一。監事には、あいち三河農協の寄田圭さんが就任しました。事務局は、岡崎市経済振興部中山間政策課が務めることとなります。

○まちづくり協議会が期待する竹資源活用（会長 梅村順一）

この協議会は、単に荒廃竹林解消だけでなく、切り出した竹を有効活用し、地域経済に効果を発揮する仕組み作りを実施します。運営委員会での竹資源の活用法は、竹炭生産、土壌改良材や堆肥利用、家畜飼料加工、竹チップの遊歩道敷設、新素材への応用（バイオプラスチック、竹紙、集成材、繊維加工）、伝統工芸品、筍販売加工、観光資源活用などの提案がありました。放置された竹林の管理を進めることで、地域の環境や景観を改善し、有害鳥獣の生息環境を管理することに繋がります。竹資源を活用する活動により、雇用の促進や所得の向上を目指し、地域経済循環の拡大を図ることが期待されます。本事業は、農山漁村振興交付金（山村活性化対策）を活用し、令和4年度より3年間の計画で進められます。宮崎まちづくり協議会の皆さんと共に、新たな地域振興事業を展開したいものです。近日中に、放置及び荒廃竹林の除伐と竹処理の実演を計画しています。

○竹林の除伐や掃除が始まりました（竹林に入りチップ化、トン袋に入れて堆肥化の試作も実施）





【教育環境部会】

歴史文化探訪委員会 (委員長 清水 力さん)

○雨山城址登山口に看板を設置

令和4年度の歴史文化探訪委員会の活動目標は、雨山城址、風越峠及び西藏に加えて、天使の森を含んだ「雨山 山歩きマップ」を作成することです。そして雨山ダム周辺に大きく掲示して、ハイキングの人や観光客に見ていただくことで、雨山地区を皆さんにお知らせすることです。掲示板の設置する目標に向けて邁進しています。

当初は、雨山ダムに設置を考えていましたが、諸事情により、雨山ダム手前の登山道入り口に設置することになりました。予算確保については、宮崎まちづくり協議会のご協力をいただき、地域協働推進事業費の申請を行いました。岡崎市から7月25日付で交付決定通知が届き、具体的な活動をするようになりました。早速、地域おこし協力隊の服部さんが図案の作成し、雨山町に移住し地域貢献を希望していた清水昂喜夫妻が同図案を修正していただきました。そして若手中心に看板の構成や実際にコースを歩いてデータ取りをし、図案がほぼ完成しました。今後は、皆さんのご了解をいただきながら年内には看板の設置を行いたいと考えています。会員の意欲が高まり、これまで以上にコース整備に力を入れなければと考えています。

【サイクリング部会】

サイクリングの郷づくり委員会 (委員長 井畑俊治さん)

○絆の森で、MTB試走とデュアスロン競技を開催



令和4年9月17日(土)、室合内の絆の森において、里山こうぼうをつくる会との協賛で「自然の中で自転車体験を楽しもう」をキャッチフレーズにして、自転車とランによる競技とマウンテンバイクのお試し走行があります。

参加募集は、幼稚園児から小学生を対象とし保護者同伴20組程度を募集しています。初心者も歓迎しており体力や技量に合わせた内容を選択できます。デュアスロン競技は、トライアスロン元アジアチャンピオンの高橋さんが指導。MTBは、サイクルぴっと井上の店長がやさしく丁寧に教えてくれます。初めての方も安心して参加できます。9月12日の締め切りです。申込(鈴木久義090-7032-2854)

【くらがり活性化部会】

くらがり活性化実行委員会 (委員長 菅沼弘さん)

○糟谷磯丸の歌碑



くらがり八景の一つ、猿飛岩前に古い歌碑(約180年前に健之)があり、3首の歌が詠まれています。作者は江戸時代後期に「漁夫歌人」として人々から慕われ、神様(磯丸霊神)にもなった「糟谷磯丸」です。

1764年(宝暦14)磯丸は、田原市伊良湖町の漁師の長男として生まれました。31歳の時に父親を亡くし、母親の病氣治療を願い神社へ日参していた時に、参詣人が詠む和歌の魅力にひかれ、35歳の時に和歌の道にすすみました。磯丸は、生涯で数万首の歌を詠んだと言われている。特に磯丸の「まじない(呪い)歌」は有名で、家内安全や恋愛成就など人々の求めに応じて多くの歌を詠みました。また、磯丸は旅好きで三河の各地、長野、浜松など三遠南信地域をよく訪れ、京都、伊勢、尾張、江戸でも多くの歌を詠んでいます。

ここ宮崎の里には、天保14-15年(1843-1844)の2年にわたり、寺社や有力者宅などに寄寓して歌を詠んでいます。磯丸の歌碑は、各地に36か所あるなかで生地の田原市に10か所、そしてなんと!宮崎地区内には6か所(①石原町・くらがり溪谷猿飛岩前、②石原町・牧原不動堂前、③石原町・石坐神社内、④宮崎町・亀石明神社内、⑤明見町・宮崎神社内、⑥木下町K家旧墓所内。掛け軸は、①木下町・東向寺、②明見町・少林寺、③明見町・H家宅)もあり、これは驚きの多さといえます。当時の宮崎の人々が如何に磯丸を慕い、そしてその歌に癒されたことがうかがい知れます。磯丸が宮崎で読んだ歌は、「新編磯丸全集」の中で「宮崎の里詠草」として掲載されています。

磯丸の歌は、古文ゆえにその意味がなかなか理解できないところですが、くらがり活性化委員長として猿飛岩前の3首については、来場者へその意味を正しくお伝えできるように勉強していきたいと思っています。